孟子の性善説

土田龍太郎

漢書藝文志にて孟子凡七篇と班固の著錄せし鄒人孟軻の書、今に遺れるはこの中書七篇のみなれども、かつてほかに性善辯文説孝經爲政といへる外書四篇ありて世に行はれしこと、趙岐の題辭よりやうやう知るをうべし。性善辯てふ篇目よりすれば、すでに七篇の内にて述べりし性善の説をなほつぶさに論ひけむとは思はるれども、その本文すでにひさしく失はれぬるうへは、ただおぼろげの推し測りのみにてやみなむほかなきぞあひなき。

孟子公孫丑篇にて性善を説くにあたり、まづ掲るは不忍人之心なる語にほかならず。これ超岐註によるに、およそ人たるもの、よそ人に惡を加ふるに忍びざる心の生れし初めよりそなはれるを云へるなり。もしここに孺子（をさなご）のありたらむに、その子たちまちに井に落ち入らむとせば、かかる危さまを見るからに、たとへゆかりなき異人（ことびと）なりともたれかは恐れ憐れむ心を起さでやはあらむ。この心やがて惻隱之心にことならず。孟子この惻隱之心のほかにまた羞惡之心辭讓之心是非之心を羅ね、この四心なきは人にあらねば人たるうへは必ずこの四心を具へたること、さらに四心おのおの仁義禮智の端なることを左のごとくに説き明したり。

由是觀之、無惻之心非人也、無羞惡之心非人也。無辭讓之心非人也。

惻隱之心仁之端也、羞惡之心義之端也、辭讓之心禮之端也、是非之心智之端也。

公孫丑篇のみならで、告子篇の内にても、同じく惻隱など四心を列ね、おのおのを仁義禮智に充てたるところあれど、ここにてはさらに

仁義禮智、非出外鑠我也、我固有之、弗思耳。

と言ひ加へたり。されば、公孫丑篇にても告子篇にても、孟子みづからの考へなせる性善説を解き明せること疑ふべきにあらず。さはれ性善の**二文字を孟子の用ゐたるはこれら**兩篇の内ならで、滕文公篇の收むる一章句にかぎられたり。この篇、孟子と滕文公の問答をくさぐさ載せたれど、初め文公が孟子に會へりしをりのことにただに續けて

孟子道性善、言必稱堯舜

とばかり記せれば、性善に及ぶことといとも言短かなり。

公孫丑篇にては、まさに井に落ちなむとする孺子によせて、人に生れつきたる怵惕惻隱の心を說けれど、この譬への巧みなることげにこよなければ、弘く世に知られぬるはいはれなきにあらず。

井に落ちなむとする孺子を見て忍びざる心のやがてきささむはさてもありぬべけれど、これしかしながら刹那ばかりの心の搖ぎにすぎずとせば、これば かりにて人みなに仁心もとより具れりと思ひ定め性善を唱ふるは、いかにもうちつけにてしひごとめきても聞ゆれば、いとも危しといはでやはあらむ。そのをりにかなへるただかりそめの寓言を作りたくめりしにたれば、これもて人性の奥がを究めむことさらに望むべくもあらじ。

儒家の典籍あまたあるなかに、經書に次ぎて古くより人の尚びきたれるはなほ孟子七篇にほかならで、後漢の趙岐のものせし註にはじまる現存孟子註解のたぐひいとも夥しくてただ數ふるだにいとまなければ、まして今それらおのおのにつきてつぶさに勘へむことのさらになしうまじきはいはでもありぬべし。

唐石經の十二經に孟子を加へて十三經を數ふるは宋人の始めしわざなれど、かくありしうへは孟子七篇十四卷はや子部より上に出でて經書の末に列なるをえたりしなり。

論語大學中庸に孟子を加へて四書と號(よ)べれど、これまた宋儒に始まりし習ひにて、孟子註解くさぐさある中にて、近き世の人のわけて親しみきたれるは、南宋の朱子の筆になれる孟子集注なるにまぎれなし。

さはれ孟子正義を著はせる明の焦循のごとき朱註をいささかも顧ざるものあり。また下りて清の載震、その孟子字義疏證の中にて宋儒の釋義の誤りを多く咎めたりといへり。

そも世のなべての儒者のひとしく孟子を仰ぎ尊べるにてもあらず、孟子をさまで好まぬ儒者少なからざるめれども、ここに例(ためし)にあげまくほしきは荻生徂來にて、そのものせる經子史要覽なる册子の內に、經書より始め諸子古史に及べる典籍のあらましを說き示せり。これもとより初學者のために作れる解題にすぎぬはさることなれども、およそ碩學鴻儒の本意、かかる小册子にふとかくれなく顯るることなきにあらねば大著ならずとてゆめなほざりに見るべからず。

孟子七篇三萬餘言につきて二失ありと徂來の云へるところ左に引きみるべし。

負ケマジト思フ心ヨリ、イロイロト辯ニマカセ、終ニ無理ヲ云フコトコレ一失ナリ。

先其心ヲ悅バシメン爲ニ、非理ヲ人ガ言フヲ云ヒ人ヲススム、ソノ爲に往々不通ノ論アリ、故ニ孔子ノ道ニ相背ク、是二失ナリ、

ここにその心を悅ばしめむためにと云へるは、齋宜王梁惠王の心を指せり。

物徂來、孟子をひたぶるに貶むるにてはつゆあらで、孟子を一世の人傑と見定め、そのめ、その辯論を利器に譬へたり。

滕文公篇にて孟子みづから

我豈好辯哉、予不得止也

と抗へれど、鄒の孟軻つひに辯論の人にて終りたりと云はむも誤りなかるべし。されば、をりをりの勝ち負けに拘(とらは)れぬるあまり、こころはやりて理(ことわり)なきところにしひて理を立てけむことなきにしもあらざりけめど、これさまで咎めでもありなむ。

孟子の諸國に遊説せしころほひ、秦は**商鞅を擧げ、楚魏は吳起を用ゐてともに富國強兵**に勵み、蘇秦張儀のともがらはおのがじし合從と連衡を計り、楊朱墨習の僻論天下に喧かりしかども、かかる世にありて、ひとり孟子のみ唐虞三代の德を宣べ仁義を説きてやまず、いささかもひるみたゆむことなかりしは、げに時にとりての勳(いさを)なりとぞ云ふをうべき。孟子の性善説にしひごとめきて聞ゆるところなきにあらぬは、すでに述べりしごとくなれども、これまた孟子辯論の一方便を知らしむるにたれりとせばあながちに斥くべきにてもあらず、心いれてけみせでやはあらむ。

（令和六年四月二十七日受附）